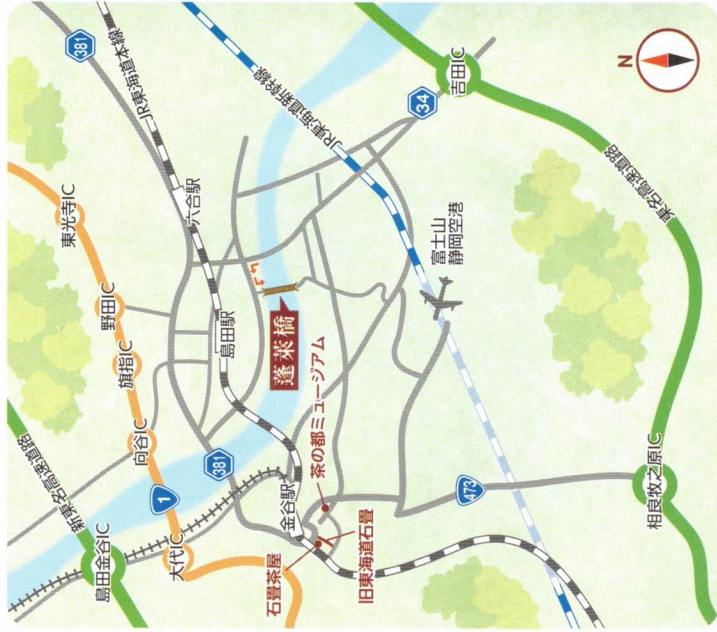


アクセス地図



蓬菜橋と 右岸台地散策

蓬菜橋(897.4m:ヤクナシ)を渡り、厄除け地蔵と七福神にお参りすれば厄が解け、台地に登れば、緑いっぱい茶園と周辺施設からは古代の歴史が偲ばれます。



メッセージ動画配信中!



ココアール
ARアプリ COCOAR2

ARアプリCOCOAR2
ダウンロードはこちら



専用アプリをダウンロードし、画像にスマートフォンのマークがある
がご覧いただけます。
※お使いの機種や通信環境によってはご覧いただけない場合があります。

iOS

Android

賛助企業

株式会社 森田木工所
 株式会社 エービーアイ
 清水銀行初倉支店
 大井神社
 クノール食品株式会社
 株式会社 文島食品
 株式会社 グラタ
 島田信用金庫初倉支店
 南増田屋
 JABA大井川初倉支店
 株式会社 宇越春
 株式会社 サインアートツカ
 Y・K・O研究所
 島田トラック運輸株式会社
 南大塚製茶
 蓬菜橋土地改良区
 カネ松製茶株式会社
 インフィニティ株式会社
 株式会社 あじかん静岡工場
 富士メタルプリンティング株式会社
 静岡県労働者金庫島田支店
 アピタ島田店
 カネキ燃料(南)
 大食品工業株式会社
 大村屋造場株式会社
 清龍洋行株式会社
 南増田電機株式会社
 大河丸
 ミヤマス
 島田農園株式会社
 大成商事株式会社
 星塚成商
 静岡銀行初倉支店

蓬菜橋周辺整備促進協議会

事務局 島田市商工会 初倉支所
 島田市阪本1449-1 TEL. (0547) 38-0009

散策コース

茶屋(起・終点)で約3時間



897.4 (やくない) 茶屋

↓ 20分 世界一長い木造歩道橋、横風に留意

1 七福神小路

↓ 10分 600mの林散策道周辺に7つの石像



2 中條景昭之像

↓ 3分 茶畑と富士山を眺ながら300m歩く



3 東照宮跡地

↓ 20分 約1kmの茶畑を歩く。途中、坂・竹ヤブあり



4 今井信郎屋敷跡

↓ 10分 引き返して700mを歩く。登り坂あり



5 敬満神社

↓ 3分 道を挟んだすぐ近く



6 法林寺

↓ 10分 500mほど下る



7 大楠神社

↓ 20分 法林寺まで戻って茶畑の間を抜ける



8 愛宕塚古墳

↓ 40分 中條公園経由で橋に戻る。約2.5km



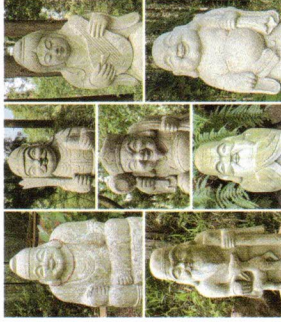
897.4 (やくない) 茶屋

※農地や茶畑に侵入することは禁じられています。
また一般道を通りますので交通ルールを守り、安全に楽しく散策するようお願いいたします。

散策マップ

1 七福神小路

橋を渡るとすぐに恵比寿天から始まり最終の布袋尊まで約600mの距離の散策道間に7つの石像が配置されています。左岸側の有志により平成7年頃に設置されました。他に、フォトフレーム、愛和の鐘などがあり昔、地獄沢にははり橋が架けられていました。



2 中條景昭之像

牧之原大茶園開茶の緒を陣頭指揮した元幕臣の記念碑です。隣に伊佐新次郎の“龍”の書碑があります。ここから大井川の左岸側を視れば正面に高草山と富士山、遠くには南アルプスの連山が望めます。



3 東照宮跡地

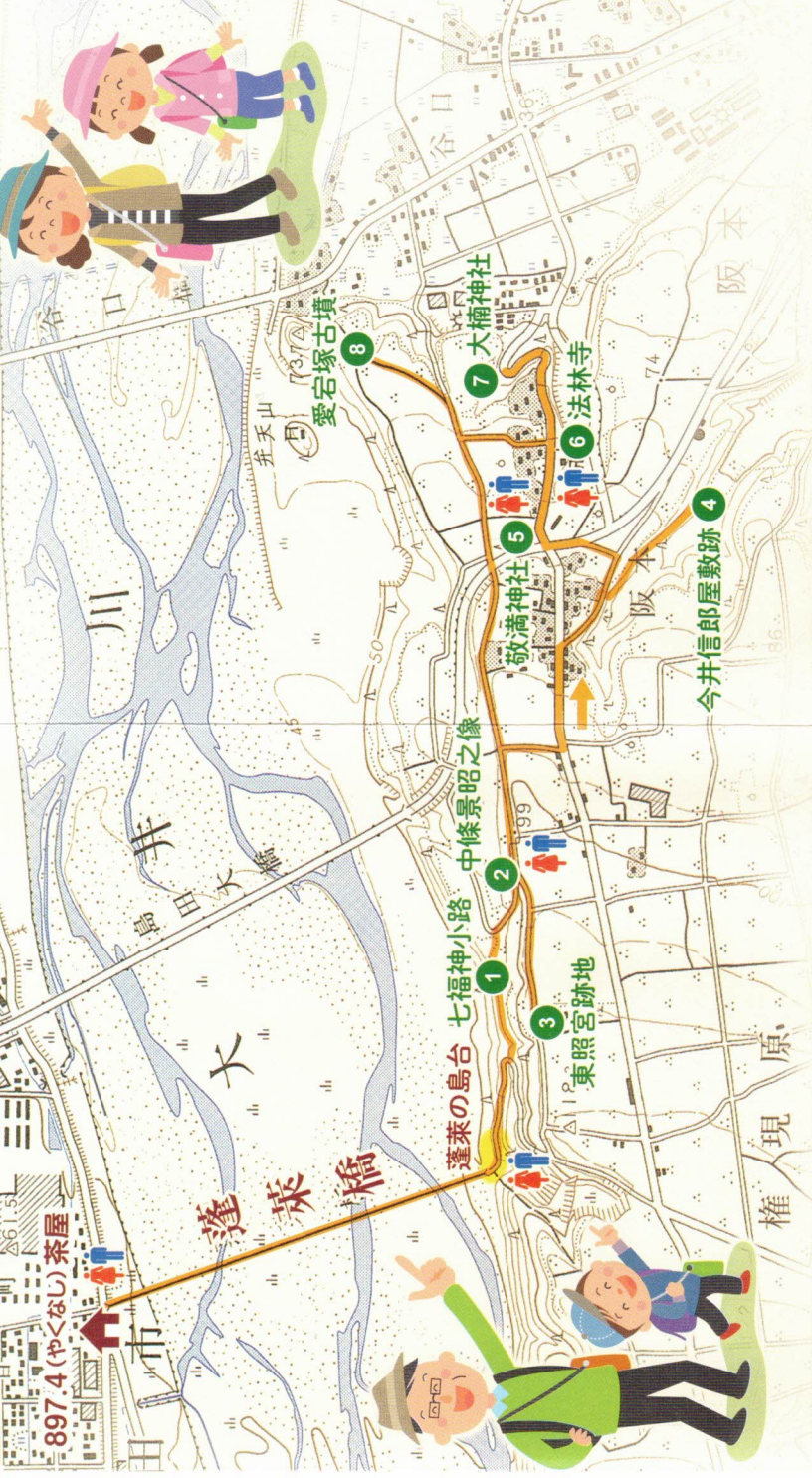
谷口原には旧幕臣の開墾方本体が入榎、心の拠所として明治10年、この地に牧之原東照宮仮社殿が完成。神社幟旗は勝海舟、榎本武揚が奉納。現在は島田市所有で原野となっている。



4 今井信郎屋敷跡

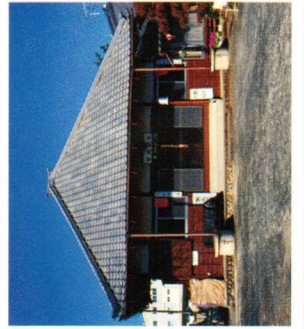
牧之原開墾方として入榎以降、大正7年まで居住。幕末期、京都見回り組に参加、近江屋事件に関与し、戊辰戦争終結まで幕府軍として活躍。初倉村第4代村長なども務め地域振興に尽力。3男健彦氏は参議院議員、嫁は詩人の今井邦子さん。





5 敬満神社

延喜式(裏面解説)で名神大の位を受けました。祭神は、天照大神(アマテラスオオミカミ)・建速須佐之男命(タケハヤスサノオノミコト)外敷神が合祀されています。創建は社伝によると垂仁の朝26年(紀元前4年)といわれています。



6 法林寺

曹洞宗、牧之原の開拓幕臣に書道・仏典を教えた伊佐新次郎が葬られていす。かつて下田奉行所に出仕中、唐人お吉をハリスの元へ奉公させた事で知られています。



7 大楠神社

欽明の御代(535〜)の創建(社伝)。延喜式で神社格式名神の位を授けられました。祭神大日貴命(オオナムチノミコト)、仁徳天皇の御代、大井川に流れ着いた大楠で船を造り、その船霊を祀ったと言われています。



8 愛宕塚古墳

この付近には20以上の古墳群があります。その中で最大の古墳です。長さ21.5m、高さ2.75mの前方後円墳です。6世紀後期の豪族を葬ったものと思われています。

蓬萊橋の由来

幕府は元禄9年(1696)、大井川に川庄屋を任命。制度により架橋・渡船は禁止され川越人足の肩車や運台で渡河するしかなかったが明治3年(1870)に渡渉許可が出された。

一方、明治2年(1869)に旧幕臣が開墾方として谷口原に入植、以来島田宿から台地の開墾に参加するものや茶業を営む者、日常の生活物資を求めて島田宿に渡る人が増えた。

この頃、原坪渡船組合の3艘を利用していたが増水による欠航などが多く不便でした。この事態に島田宿の清水永蔵・鈴木金作ら42名は「農業一途使用仮橋嘆願書」を静岡県に提出(1878年11月)し、12月に許可された。架橋は農業用であり開墾者は無賃として他の者が通行する場合は一人につき金5厘を徴収した。

架橋地点は、島田宿横井地先より対岸の湯日村地獄谷の間として出資を募り、明治12年(1879年)1月13日に完成、蓬萊橋と正式に命名された。その後、度重なる洪水で橋は損傷することが多く、濁水期には大幅な補修工事を余儀なくされたが、開墾地と島田宿を結び交通の要所として活用されてきた。現在は蓬萊橋土地改良区が維持管理している。平成9年(1997)、世界最長の木造橋としてギネスブックに登録されました。

蓬萊橋右岸側(蓬萊の島台)



その他の魅力

「敬満神社経塚」

昭和9年、敬満神社境内から北約90mの所で、精銅製、陶製経筒が8個その他鏡などが出土して現在東京国立博物館に所蔵されています。お釈迦様が亡くなられて1万年後に仏教が滅びて恐ろしい世が到来するのを恐れて当時の人々がお経が無くならない様にと、筒に納めて埋めたものといわれています。

「谷口原古墳群」

かつては「初倉千塚」と呼ばれ、牧之原台地の古墳群の中で、最も古墳の集中していた地域で、以前にはこの辺りだけでおよそ100基とも200基とも言伝えられた所です。北側大井川に面して分布する井支群17基、森下支群4基など多数多く記されています。墓石塚古墳北には古墳の碑という出土破片を積み重ねた碑があります。

「古代東海道」

天智天皇(660)の御代に各種の法律や制度が作られ、その後度々改正が行われました。延喜式の中で道路については、都(みやこ)域内から全国へ向けて7つの海道を決め、各地に駅を作り馬を配置しました。駅は“うまや”といひます。東海道は伊勢の国(三重県)から常陸の国(茨城県)迄、遠江の道筋は、駅馬 猪鼻一栗原一引摩一横尾一初倉、各10疋(ひき)と記されています。

「牧之原大茶園の開発」

幕末江戸城明渡しに伴い、徳川慶喜・家運はそれぞれ静岡入り、これに伴う家臣団は600名に及んだといひます。これからの生活手段として、勝海舟・山岡鉄舟等の奔走によって牧之原荒地1,470ha余の下賜を受け割譲して入植に当たりました。明治2年の事でした。これに従事した土族は約330戸に及んだといひます。この集団の隊長が中條金之助景昭です。開墾資金の調達、当座の生活資金の扶助と並大抵の苦勞ではなかったようです。價れない労働と貧困に土族は耐えかねて脱落が続きましたが、島田金谷の川越人足が川越制度廃止により失業状態となって開墾事業に参加、地元農民も入り交じって開発は進みました。当時は貿易品として茶は絹と共に花形であり、開墾地は全て茶の植樹が行われました。

(写真 堀本陽三)



中條公園から東方を望む